

平成16年9月2日(木) 上毛新聞

(第3種郵便物認可)

先日、浜名湖花博で
「青いバラ」を見た。
「青」といつても、薄く淡いやさしい色だつた。これは遺伝子組み換え技術で作られたと思つていたけれど、「青いバラ」には「不可能」という意味がある。そうだ。人は不可能を可能にしようと、太古の昔からいろいろな努力をしてきた。でもそれは自然界の許す範囲でのことだった。

遺伝子組み替え技術が発達し、光るメタカ、二倍早く育つサケなど、自然界には存在しない

安全性は？ 進出へも食卓



遺伝子組み換え食品

伊勢崎市中央町。県環境アドバイザーチーム記、環境市民ネット代表、損害保険代理店、
【つぼんき・まち】が食べるといふもの。うとうといふもの。私たちもつと、遺伝子組み換え食品の表示が義務付けられたが、実際に「組み換え」の表示を見るのはほんのわずかだ。遺伝子組み換えの表示義務は、原料料のうち上位三品目までと、重量比五分以上



浜名湖花博に展示された「青いバラ」

「新しいもの」が創り、口コシ、ジャガイモ、ナタネなどがある。特伝子をトウモロコシや大豆、ジャガイモなどあるコメや日本の食生に入れ、その作物を虫活に欠くことのできない小麦に使われようとしている。私は自然界の許す範囲でのことだった。

（六本木真千子）

そして未来

▶▶9

県環境アドバイザーカラの提言

食品として登場するも、周りの雑草だけがようになつた。枯れ、除草剤耐性遺伝

現在、日本に出回っている主なものは、除草剤耐性や害虫抵抗性を持つた大豆、トウモロコシは枯れないと、モロコシは枯れないと、いうのが除草剤耐性。

それが、遺伝子組み換

えの表示義務は、原料料のうち上位三品目までと、重量比五分以上

のものに組み換え原料

を使用した場合に限ら

れているからだ。これ

により植物油脂（大豆油、コーン油、ナタネ油）、しょうゆ、乳化剤などは、遺伝子組み替えた由来のものを使つていても表示の義務はなくなつていて。

今、遺伝子組み換え技術は、日本の主食で組み換え食品の表示が伝子組み換え作物・食

品について知ることが大切だと思う。